

## 留学レポート 1

岩手大学 人文社会科学部 人間文化課程 1年 山口大河

【留学テーマ】世界の被災地から学ぶ多文化社会

【留学先】インドネシア アチェ州

【留学期間】2018年2月16日～2018年3月25日

私は現在、インドネシアのアチェ州にて災害時の外国人への対策のあり方について学んでいます。アチェ州は2004年のスマトラ島沖地震で歴史上最も大きな被害を受けた場所の一つで、現地住民のみならず多くの外国人犠牲者も出ました。そして2004年以降この地域では災害に対する意識が高まっており、実際に現地で行われている災害対策を見てその学びを岩手県の復興へ還元したいとの思いから留学を決意しました。



【写真1】アチェ州のシンボルであるグランドモスク

### 【アチェという町】

インドネシアのスマトラ島北端にあるアチェ州は、海に面した地方ということもありゆっくりとした時間が流れているように感じます。交通手段の一つとして馬車が走っていたり、気温 35 度の中南国感漂うココナッツが販売されていたりと日本では普段経験することのない貴重な時間を過ごしています。

また親日国家であるインドネシアでは日本製のものが多く、特に自動車は全てが日本製で現地住民はバイクを「ホンダ」と呼ぶほどに流通しています。日本人に対してとても寛容で、言葉がわからない私にも笑顔で丁寧に接して下さるため楽しく実りある毎日を過ごしています。

### 【現地での活動】

現在、アチェで生活をして約 3 週間が経過しました。街は大津波があったとは思えないほど復興を遂げている一方で、沿岸部では震災から 13 年経った今でも被害を受けた建物がそのまま残っているという現状でした。

災害弱者と呼ばれる観光客や留学生といった外国人への対策としては、町中に図や英語を用いた災害看板が設置され、避難所がどこにあるのか非常にわかりやすいまちづくりが行われていました。現在はあの悲劇を後世に伝えるため様々な施設が建設され、観光業に力を入れています。より詳しい活動内容は留学レポート 2 でお伝えします。



【写真 2】 避難所を示す災害看板

### 【現地での生活】

インドネシアの地方に位置するアチェには外国人がおらず、言葉もインドネシア語または現地語のアチェ語のみが使用されています。牛や馬が人間と同じ道路を歩いていたりと最初は驚きましたが今ではそのような光景も日常となりました。初めて外国人を見るという人がほとんどであり、どこを歩いても3・4度見をされてしまいます。町に滞在する初めての外国人ということで本当に温かく迎え入れていただきアチェが大好きになりました。

普段は午前中に大学の語学学校でインドネシア語を学び、午後は災害施設・被災地の訪問や研究者へのインタビュー等を行なっています。休日は日本語学校で日本語を教えたり、友人にアチェを案内してもらっています。アチェはコーヒーの産地として有名で至る所にコーヒーショップがあり、先日はお店で初めて会ったおじさんとコップ1杯で4~5時間の会話を楽しみました。アチェ人は本当にコーヒーが好きなようです。

インドネシアでの滞在を通して個人的に感じた日本との大きな違いは水環境です。お風呂やトイレは溜め水から桶ですく必要最小限の水を消費します。シャワーやトイレのレバーがある日本では必要以上に水を使いすぎていると感じました。そして慣れない水環境や急激な気温変化の影響で先週まで1週間ほど38度の熱を出してしまいました。

また、アチェはインドネシアで最もイスラム教への信仰が強い地域であり、1日5回のお祈りや断食など宗教が中心の生活を送っています。近所の人などと宗教観について話すことが多々あり、自分の国の宗教についても考える良いきっかけとなりました。



【写真3】 インドネシアの伝統的な結婚式に参加